

# 芸術文化祭 福祉ひろばまつり



令和元年 11 月 1 日現在
世帯数 2,855 世帯
男 3,304 人
女 3,460 人
総人口 6,764 人

## 島立小学校「年生」 「地域探検」

11月9日(土)、10日(日)に島立公民館と体育館にて第48回島立地区芸術文化祭・第14回福祉ひろばまつりが開催されました。

今回は、芸術作品の展示に加え、地域住民の交流を深めるためのスポーツやものづくり等の体験コーナーが用意され、大人から子どもまで多くの人が集まり、それぞれの体験を楽しんでいました。



▲ハーバリウムボールペンづくり体験

なお、作品展示会場や体験コーナーの様子を裏面に写真で紹介しています。来年以降も皆さまの積極的な参加をお願いします。

11月1日(金)、小学校2年生が、社会科の授業で、島立地区の文化財やその由来などを知ることとした地域探検を行いました。前回10月2日には荒井・堀米地区を巡り、今回は、北栗・南栗地区を徒歩で巡りました。



小学校を出発し南栗にあるキウイ畑に寄って大きな木から一人四角ずつもぎ取りました。次に向かった正行寺では、佐々木四郎高綱によって造られた事や鐘堂門が島立地区に唯一の物である事を佐々木住職からお聞きしました。現在は、安全確保の為、鐘堂門の鐘は下ろされ鐘突堂にあります。その後、南栗公民館横の道祖神や栗林神社を巡りました。

最初に参加者全員でハーモニカの伴奏に合わせて、「どんぐりころころ」と「赤とんぼ」を歌い、その後、凝り固まった筋肉を伸ばすためにストレッチ体操や手を使った脳トレを行いました。

次に小学生が総合的な学習の時間を使い行ってきた人形劇の発表です。総合的な学習の時間とは、1年かけて子どもたちが目標に向けて考えていく授業で、1学期には教科書に掲載されている「きつづきの商売」を群読したり、1人でセリフを言ったりしてきました。今回は、2組の子どもたちで結成した「にこなこよしたんぼぼ劇団」が人形劇「にんじんぱぺポ」を披露してくれました。



## 島立スポーツフェスティバル ユーススポーツ体験コーナー

10月20日(日)行われたスポーツフェスティバルで、久々にユーススポーツの体験ブースが設けられました。7つの種目があり、主に子ども達が楽しんでいました。写真は、「スカットボール」です。



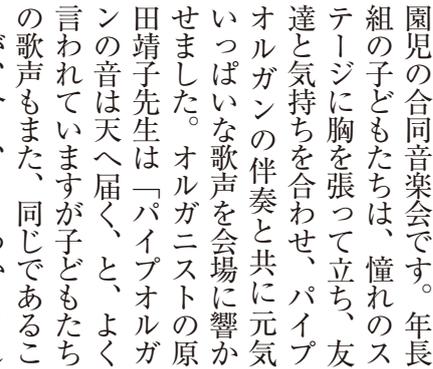
その後、地域の方や小学生などでお茶会を行い、より一層世代を越えた交流を深めました。

人形劇の後には、音楽の授業で習っているリコーダーで「エーデルワイス」や「大きな古時計」などを演奏してくれました。

## パイプオルガンの集い

10月31日(木)、音楽文化ホールで「パイプオルガンの集い」が開催されました。島内・小宮・堀米、三園の保育園児の合同音楽会です。年長組の子どもたちは、憧れのステージに胸を張って立ち、友達と気持ちを合わせ、パイプオルガンの伴奏と共に元気いっぱいな歌声を会場に響かせました。オルガニストの原田靖子先生は「パイプオルガンの音は天へ届く、と、よく言われていますが子どもたちの歌声もまた、同じであることが、今日、よくわかりました。歌声がオルガンと一体になって、天へ届く、という感覚を体験し、感銘を受けました」と、お話しして下さいました。貴重な経験をした子どもたちにとって、歌う楽しさを体全体で充分に味わうことが出来た。芸術の秋となりました。

10月31日(木)、音楽文化ホールで「パイプオルガンの集い」が開催されました。島内・小宮・堀米、三園の保育園児の合同音楽会です。年長組の子どもたちは、憧れのステージに胸を張って立ち、友達と気持ちを合わせ、パイプオルガンの伴奏と共に元気いっぱいな歌声を会場に響かせました。オルガニストの原田靖子先生は「パイプオルガンの音は天へ届く、と、よく言われていますが子どもたちの歌声もまた、同じであることが、今日、よくわかりました。歌声がオルガンと一体になって、天へ届く、という感覚を体験し、感銘を受けました」と、お話しして下さいました。貴重な経験をした子どもたちにとって、歌う楽しさを体全体で充分に味わうことが出来た。芸術の秋となりました。



堀米保育園 高橋 環先生



島立地区芸術文化祭

